

(様式第6号)

長野県みらい基金 事業指定助成プログラム
助成対象事業実績報告書

令和7年 7月 31日

公益財団法人
長野県みらい基金 理事長 様

申請者：所在地 長野県松本市里山辺 4202

団体名 エクセラン高校 福祉科

代表者 職・氏名 学校長 西沢 宏

『長野県みらいベース』において当団体が掲載した「事業指定助成プログラム」について、下記のとおり報告します。

記

- 1 助成対象事業名
あつまれ！フクシカの森
- 2 助成対象事業の実施期間
令和7年7月5日～令和7年8月10日

3 助成対象事業の内容

【 介護の魅力発信イベントの実施 】

タイトル：「あつまれ！フクシカの森」

場 所：イオンモール松本（きらめきコート・イオンホール）

日 時：令和7年7月5日 10時00分～15時00分

内 容：〈イオンホール〉

…車いす体験・レクリエーション体験・福祉用具体験

〈きらめきコート〉

…マスコットキャラクターとの記念撮影・介護福祉士養成校の紹介（謎解き付き）・ハンドケア・福引き

松本市内の介護福祉士養成校（エクセラン高校・松本短期大学）が福祉関係機関と協力し、介護の魅力を発信できるような福祉体験イベントを子どもが関わりやすいものを加えながら、スタンプラリー形式で行う。

背 景：高齢社会がますます進んでいく中、介護業界の人手不足が慢性的な問題になっているが、介護の仕事に対するマイナスイメージの先行や、学びで取り上げられることが少ないことから、若者の進路選択肢に入りにくい現状がある。

目 的：普段介護について学んでいる介護福祉士養成校の生徒・学生が、地域の小・中学生と共にスタンプラリー形式の“福祉の体験”を通して、福祉の現状や魅力を感じて貰う。その活動を通して、少しでも「福祉」に興味を持って貰うことを目的とする。

4 事業の成果

○今回は介護の魅力発信だからこそ「介護の魅力」を伝えながらも「気持ちよく帰って」頂き、少しでも福祉分野に興味を持ってくれる小学生を増やしていくよう、参加者一人ひとりに伴走したイベントになるように心掛けた。結果として、全体で「327名」の小・中学生とその保護者が参加してくれた。

○ブースの内容としては、車いすの森・レクリエーションの森・福祉用具の森・介護の森・森の写真館・ハンドケアの森・森の放送局などのブースが出ていた。特に人気だったのが、体験をしながらできる「車いすの森」や「レクリエーションの森」や「福祉用具の森」であった。頂いている感想の中には、「車椅子に乗ったり福祉用具に触れたりなかなか触れ合う機会がないものに触れて貴重な体験ができました。」などの感想も寄せられており、車いすなどの福祉用具の設置が普及しているが、触れたことがなく使い方が分からないままになっている現状もあることが理解できた。

○イベントの満足度に関しては、「大変満足・満足」と回答してくれた方が、「92.7%」とものすごく高い水準にあり、多くの方に満足して帰っていった。「不満・やや不満」に関する回答は1件のみであるため、昨年度の反省で残った「人混み」や「抽選の待ち時間」に関する対応は改善できたように感じる。

○今回のイベントを通して、福祉や介護の仕事に「とても興味を持った・興味を持った」人の割合が「91.8%」とほとんどの子どもたちが興味を持ってくれたので良かった。また、「福祉」や「介護」に関わるイベントに関しては、「とても少ないと感じる・少ないと感じる」と答えた人が「79.0%」と多くの子どもたちが関わる機会の少なさを感じていることが分かった。今後はさらに「福祉」や「介護」に関するイベントを開催していかなければならないのではないかと感じる。

メディア掲載実績

○信濃毎日新聞 (2025/05/28)

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2025052800181>

「イオンモール松本で介護の魅力に触れるイベント」 松本市の高校生が企画 運営費寄付募る

介護の魅力子どもも触れて

エクセラン高校(松本市)福祉科の生徒が7月5日、松本市中央4のイオンモール松本で子どもが介護の魅力に触れるイベント「あつまれ！フクシカの森」を開く。人手不足が続く介護業界は人材育成が課題で、福祉科への入学も減少傾向。ゲームや疑似体験を通じて幼少期から介護に興味を持ってほしいと企画した。イベント運営費への寄付も募っている。



生徒が考案した福祉科のキャラクター「フクシカ君」の絵やかぶり物でイベントをPRする生徒たち

定員15人の福祉科は一昨年末ではほぼ定員を満たしていたが、現在は各学年6、7人に減少。橋本健教諭(25)は新型コロナウイルス流行下では中学生が職場体験する機会が限られたことなどを踏まえ「日常で介護の現場に触れる機会が減ったことも影響しているのではないか」と話す。

介護業界は仕事の負担が大きいというイメージが根強いが、施設で食事や排せつの介助といった実習を積む生徒たちはやりがいを感じている。イベントの運営に携わる3年の小林沙姫さん(17)は「認知症の施設利用者の表情がちよつとした声かけで和らいだ」経験があるという。百瀬愛さん(17)は「いろいろな経験をしてきたお年寄り」と話すのが楽しい」と話す。

生徒たちは「介護の楽しさを

福祉学ぶ松本のエクセラン高生 7月に催し ゲームや疑似体験準備 運営費寄付募る

伝えたい」と昨年初めてイオンモール松本で体験イベントを開催。体が不自由な人の着替えをサポートする福祉用具や車椅子などを体験するブースを用意し、約430人の子どもが来場してにぎわったという。

今回は松本短期大の介護福祉学科の学生も運営に加わり、介護施設で行われるレクリエーションを体験するブースも追加する。会場は初回のイベントが混雑したことから今回は2カ所に分割。運営費は参加する子どもへの景品代や場所代など約100万円を見込む。企業や個人の寄付も募っており、目標額は43万円という。

橋本教諭は「寄付を通して多くの人と介護業界の問題意識を共有したい」。小林さんはイベントについて「私自身が楽しむことで、子どもたちにも福祉が楽しいと伝わりとうれしい」と話している。

寄付は一口2千円、5千円、1万円。公益財団法人県みらい基金(長野市)が運営するウェブサイト「長野県みらいベース」から、7月15日まで寄付できる。寄付の問い合わせは県みらい基金松本事務所(☎0263・50・5535)へ。

○中日新聞 (2025/6/28) <https://www.chunichi.co.jp/article/1089775>

「小中生向けに楽しく福祉体験 7月5日、松本でエクセラン高生らイベント」

19 アルファ総合 2025年(令和7年)6月28日(土曜日) 中 日 新 聞

5日、エクセラン高生らイベント

小中生向けに楽しく福祉体験

イベントへの参加と寄付を呼びかけるエクセラン高校の福祉科の生徒たち。松本市のエクセラン高で

松本市のエクセラン高校福祉科の生徒らが7月5日、将来的に介護人材の不足が懸念される中で福祉に関心を持ってもらうと、小中学生向けのイベント「あつまれ！フクシカの森」を、同中央4のイオンモール松本で開く。運営費の寄付も募っている。

同校福祉科は定員15人に対し2021年は13人が入学したが、その後は減少傾向で、現在は各学年6、7人となっている。

昨年初めて車いすや福祉用具などを体験してもらうイベントを開催。今年も車いすに乗りたり押したりする体験のほか、介護施設で実施するレクリエーションや介護関連の謎解きをするブースを設ける。

市や社会福祉協議会のマスコットキャラクターと写真を撮れるコーナーも。抽選に参加できるスタンプラリーで楽しく会場を巡ってもらう。松本短期大介護福祉学科の学生らも運営に参加する。

同校福祉科3年の竹岡幸さん(17)は介護施設での実習で利用者から「声をかけてもらえると嬉しい」と感謝された経験から「介助だけでなく、少しでも話しかけることにも意味がある」と学んだという。鮎沢穂花さん(17)は中学時代の職場体験がきっかけで同科に興味を持った。「『ありがとう』がこんなにうれしいんだと気持ちが大きく変わった」と振り返る。

当日、受け付けを担当する小林沙姫さん(17)は「エクセラン高校福祉科はこんなにきらきらなんだと、楽しそうなお客さんが来るようにしたい」と意気込んだ。会場はイオンモール松本内の2カ所。多くの人に業界の現状を知ってもらうと、7月15日まで43万円を目標に、運営費に充てる寄付を県みらい基金が運営する「県みらいベース」で募っている。(山崎優日)

松本市立病院の事業費が28億

松本市は、移転新築計画を進める市立病院の建設事業について、物価高騰や人件費の増加などにより、概算の総事業費が基本設計時と比べて28億3100万円増の153億400万円に膨らむ見通しを明らかにした。

25日の市議会市立病院建設特別委員会で報告した。市は現在、8月末をめどに新病院建設の実施設計を終

○信濃毎日新聞 (2025/07/06)

「介護や福祉の魅力 幼少から身近に」

車椅子乗ったり押したり ゲーム感覚で 介護や福祉の魅力 幼少から身近に

松本市のエクセラン高校福祉科の生徒が5日、ゲームなどを通して子どもたちに介護の魅力に触れてもらうイベント「あつまれ！フクシカの森」を同市のイオンモール松本で開く。介護業界の人手不足が続く中、幼少期から介護に興味を持ってもらう狙い。子どもたちは車椅子に乗ったり押したりするだけでなく、楽しみながら介護を身近に感じた。

◇ 介護業界では身体的な人手不足が課題で、福祉科の入学者も減少傾向にある。子どもたちに介護の楽しさを伝えたというイベントを企画し、松本短大(松本市)介護福祉学科の学生も運営に参加した。

エクセラン高生 松本で催し

子どもたちは車椅子に乗り、福祉科の生徒が乗った車椅子を押してコースを回ったり、要介護者物をつかむマジックハンドを使って足元に落ちたペットボトルやおはしを拾うなど、ゲーム感覚で介護を体験した。

美雨さん(8)は「車椅子に乗るのは初めて、自分のおじいちゃんやあやちゃんが車椅子に乗る時は、押して支えた」と話した。

エクセラン高校3年の竹岡幸さん(17)は「小さい頃から福祉の世界に触れてもらうことは大切だと思う。子どもたちが介護や福祉の仕事に興味を持ってもらえるとうれしい」と話していた。

子どもたちに車椅子の乗り方を教えるエクセラン高校の生徒(左)

市民タイムス

発行所/市民タイムス: 本社/〒390-8539松本市大字島立800番地
TEL (0263) / 受付47-7777 編集47-7774 広告48-2000 販売47-4755 ©市民タイムス2025年
FAX (0263) / 受付48-2422 編集47-1654 広告47-8585 販売48-2422 支社/安曇野・塩尻 支局/長野・木曽

しづか

ご予約申し受け ☎0120-118073
松本市上土町(大手4-10-8) <http://www.shiduka.co.jp/>

エクセラン高校(松本市)福祉科は5日午前10時から、松本市中央4の大型商業施設・イオンモール松本で、小中学生に介護の魅力を伝えるイベント「あつまれ! フクシカの森」を開く。介護業界の慢性的な人材不足と、同校福祉科の入学者数減少を受け、地域の課題であることを周知しつつ、子供の頃から福祉に触れて興味を持ってもらおうと企画した。イベント運営に必要な資金をクラウドファンディング(CF)で募り、協力を呼び掛けている。

(伊沢 陽)

イベントへの来場を呼び掛ける
エクセラン高校の生徒たち



エクセラン 5日に催し 運営資金をCFで募る

松本市の介護保険事業計画・高齢者福祉計画によると、介護職の不足人数は2030(令和12)年で411人、2045年には969人に上る。同校の入学者数も現在定員の半分以下まで減った。橋本嶺登教諭は「新型コロナウイルス禍の影響で、福祉に興味を持つてもらう機会が減ったからではないか」と推測する。

昨年初めてイベントを開催し、福祉用具などの体験ブースを設けたところ、427人が来場し大盛況だった。今回はイオンモール内に会場を2カ所に設け、寄付の問い合わせは、同基金松本事務所(☎0263・50・5535)へ。イベントの問い合わせはエクセラン高校(☎0263・32・3701)へ。

松本市の介護保険事業計画・高齢者福祉計画によると、介護職の不足人数は2030(令和12)年で411人、2045年には969人に上る。同校の入学者数も現在定員の半分以下まで減った。橋本嶺登教諭は「新型コロナウイルス禍の影響で、福祉に興味を持つてもらう機会が減ったからではないか」と推測する。

松本市の介護保険事業計画・高齢者福祉計画によると、介護職の不足人数は2030(令和12)年で411人、2045年には969人に上る。同校の入学者数も現在定員の半分以下まで減った。橋本嶺登教諭は「新型コロナウイルス禍の影響で、福祉に興味を持つてもらう機会が減ったからではないか」と推測する。

介護職の魅力 高校生発信

松本短期大学(松本市)介護福祉科も協力し、ハンドケアや介護施設のレクリエーションを体験できるブースも増やす。エクセラン高3年・鮎沢穂花さん(17)は「福祉の魅力を感じてもらえるよう頑張りたい」と意気込む。

開催には100万円以上かかる見込みで、会場費の約43万円をCFで募っている。公益財団法人長野県みらい基金(長野市)運営のウェブサイトで寄付できる。7月15日まで。

5 事業の実施状況を示す書類（添付書類）

項目	チェック欄
助成対象事業収支報告書（様式第6号・別紙）	<input type="checkbox"/>
助成対象事業収支報告書の証拠書類（領収書の写し等）	<input type="checkbox"/>
事業の経過又は成果を証する書類（外部公開可能なもの）	<input type="checkbox"/>
その他参考となる資料（該当するものがあればぜひお送りください）	<input type="checkbox"/>

※実績報告書および添付書類は、電子データにてメールでご提出ください。

※電子データでの提出が難しい場合は、郵送または持参でご提出ください。

【提出先】

公益財団法人 長野県みらい基金 松本事務所

〒390-0852 長野県松本市島立 1020 松本合同庁舎 2 階

TEL : 0263-50-5535 FAX : 0263-50-6561

E-Mail : matsumoto@mirai-kikin.or.jp